

此身成り久し法丁寧なる法言葉にあらざる
たむ存し^ん志命しむかしより一河のなほれ一樹のかけ
袖より今も他生の縁を申し^たと云一^りなり
十年ちり師と仰がれ弟とら^くみし其間^{柄の}永
の年月うは^るぬことこそ之れ人情にほ^るる空あり
法別後之心細きは思ひやれぬ然しおひたるもたれ
身は^は家^にた^るもわは又あは世^を奉^じに^は同^気
と^は心^を精^に勉^めの^とよ^き人物^とな^れん^はなり
人は其身の徳にも^もわ^らば^ら徳と智と相^をび^てこと
よ^き人と^やす^べし^きは^常と^目の^おの^おの^おの^おの^おの^お
衆^を而^も皇^とに^目を^と取^る人^向の大^目的^を忘^らぬ^はぬ
標^の子^を徳^を備^りて^後智^の力^もと^事業^もを^守り
する^業を^守り^て其^身を^わら^ば何^のや^らし^きと^思ふ^はたし
その^作の^おの^おの^おの^おの^おの^おの^おの^おの^おの^おの^おの^お
又人は元^氣を^守り^て必^要な^元氣^{なき}人^に到底^其
中^の艱^難苦^難を^忘れ^ぬ心^を守^り之^を又^充分^は養^ひ
ひ^の万^事を^守り^て心^を守^りて^は心^を守^りて^は心^を守^りて^は心^を守^り
は^守り^て心^を守^りて^は心^を守^りて^は心^を守^りて^は心^を守^り

市路差長卷中人のりり一
素と方は片一老母より大に甚
常此をせぬ子あり其様又一
郎の老母より内老母より上座
知を費未始其此も入くは
邊り金四円五拾五 差送其志
又金四円五拾五 金五円
善之能り中流子の節々
更と有る邊り月申繼し
以て願う電と解計十七本より
ちわの美良路のや友河はあな
常の申とせむ

七月五日

市路差長

市路差長

為替貯

海名 金田屋

高橋 伴太 郎 取

第類



番號票

信濃淺間

九六

信濃 淺間 郵便 局 國